

働き方改革を実現するために

—必要とされる部活動改革—

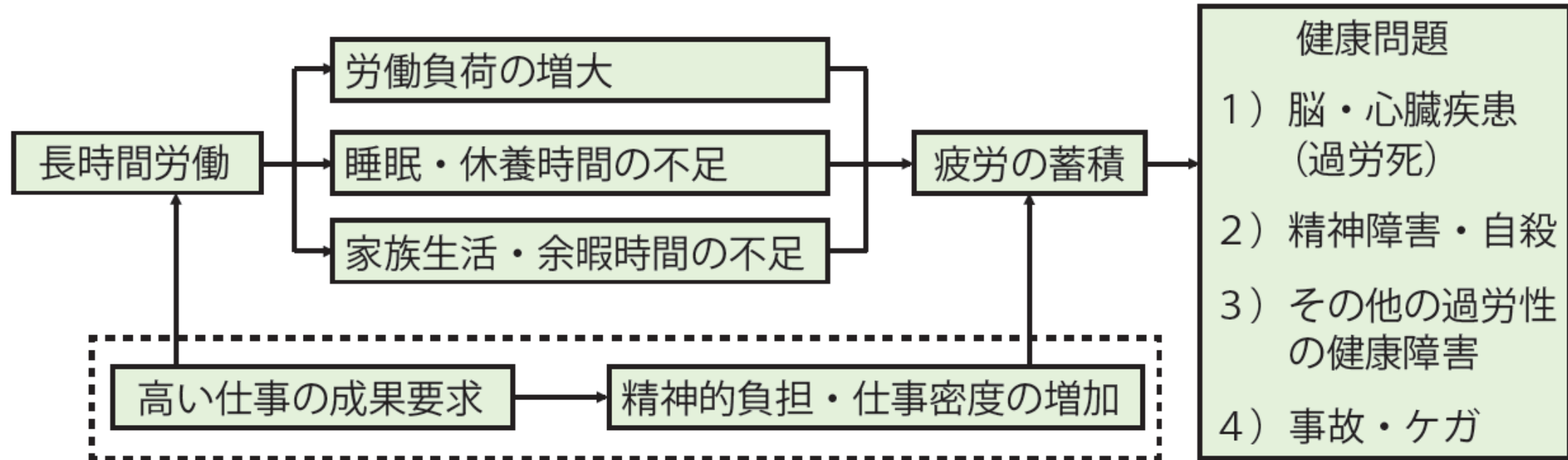
高知工科大学 前田研究室B班

逢沢 亘・大原 悠太郎・〇小出 羅未・高橋 優梨香・田村 きの

1, 緒言 · 研究背景

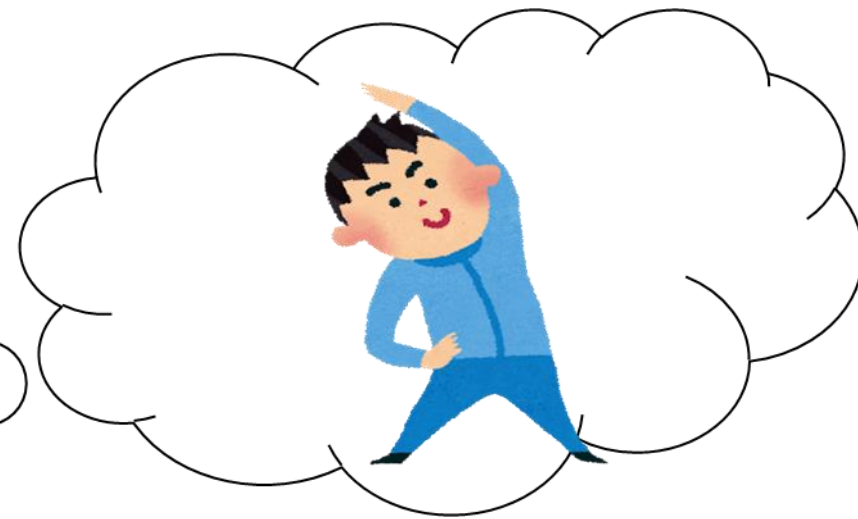


過重労働による健康障害



出典：独立行政法人労働安全衛生総合研究所

過重労働
長時間労働



部活動顧問

+

学習指導

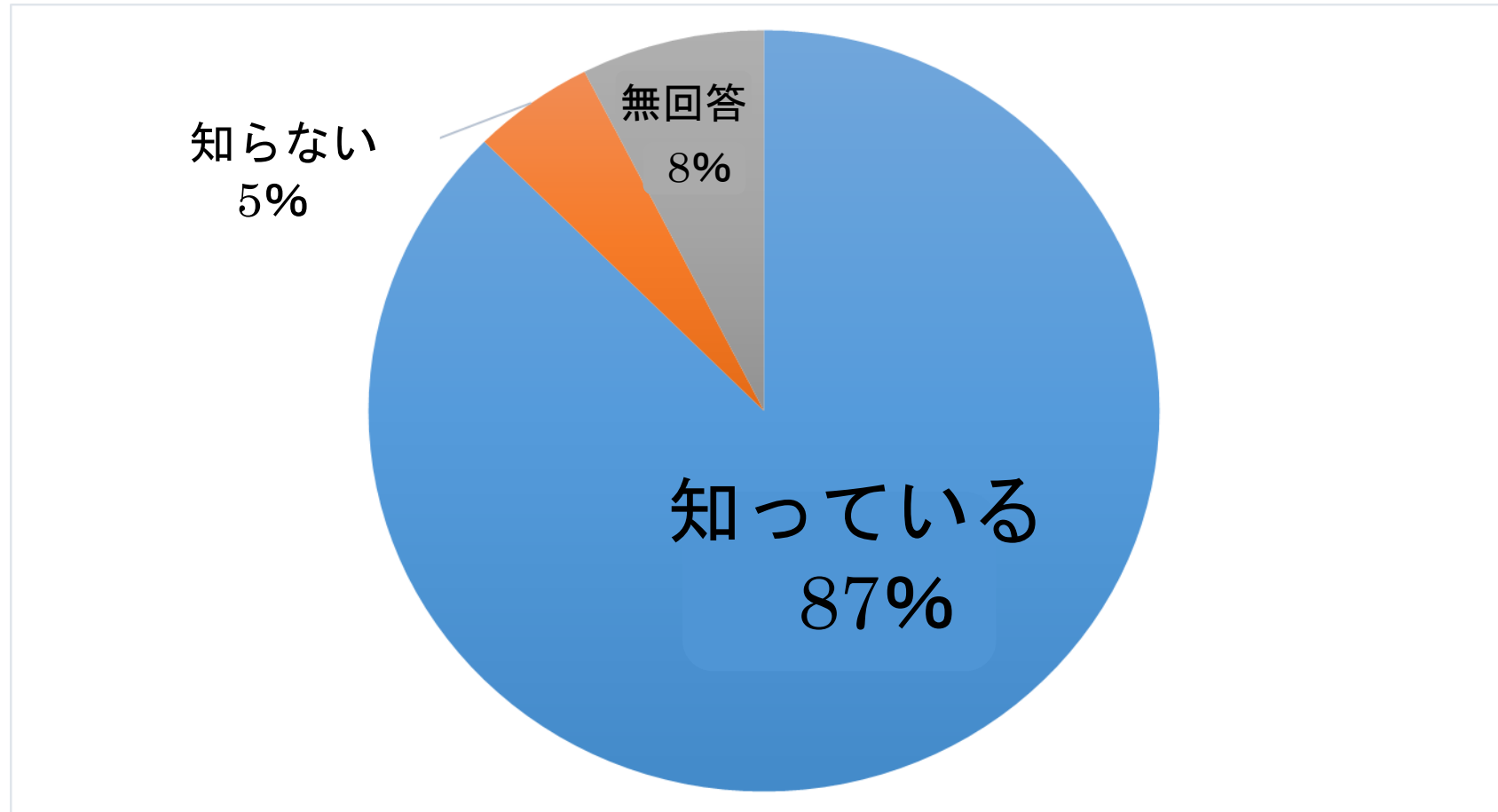


高知工科大学
KOCHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

スポーツ庁の運動部活動に対する ガイドライン

- 顧問となる教師の長時間労働の課題
- 専門的な指導ができないという課題
- 生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築する課題

ガイドラインの認知度



⇒ **認知度は高い**

というガイドラインがある
が、

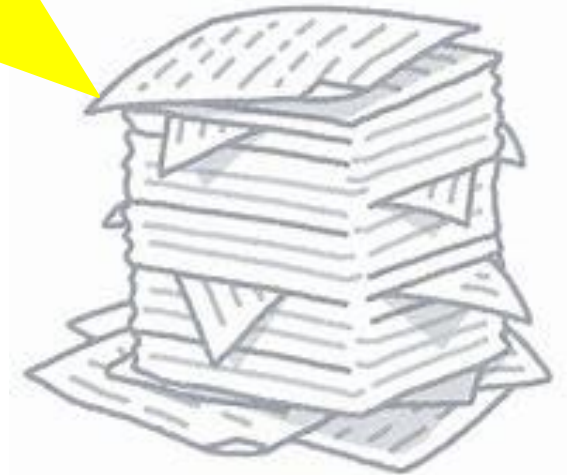
実際は . . .





ガイドラインの内容を

中学校運動部活動がどう適応していくかについての課題



部活動顧問

+

学習指導



**教育指導・部活動顧問・雑務に追われ
労働時間の短縮が見込めない**





人材不足のため専門知識のある教諭が少なく
少人数で部活動を見ることになる

その結果 . . .

過重労働



人手不足

人手不足が深刻化！！
人材不足解消が必要



高知県では . . .

- ・ 少子高齢化
- ・ 人口減少
- ・ 地方

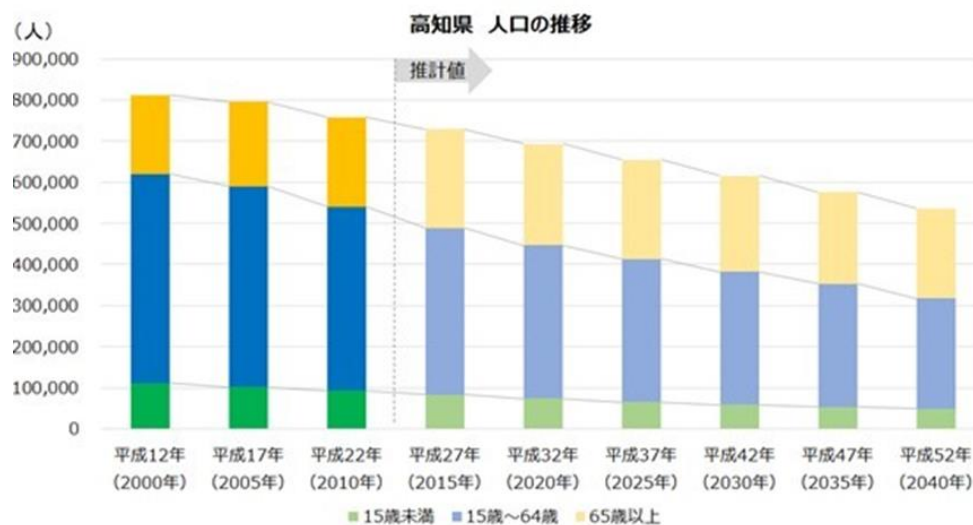
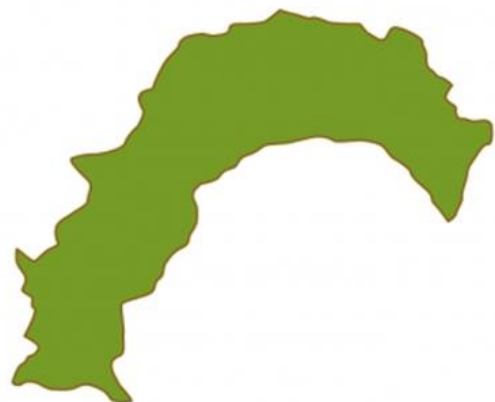
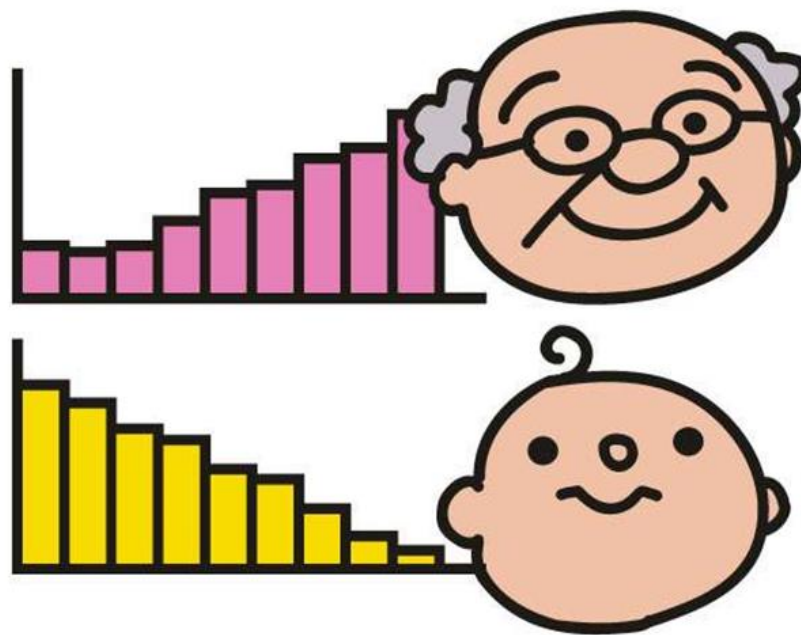


図2 高知県の年齢階級別 人口の推移



2, 研究の方法

結果及び考察

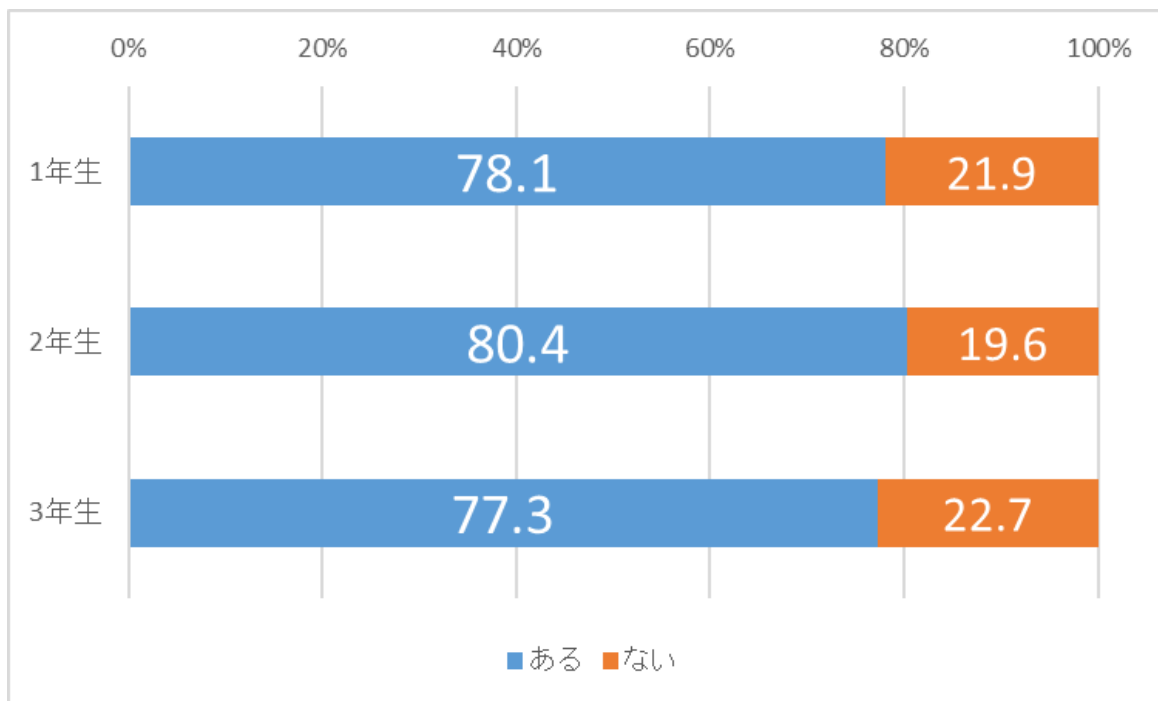
第一次調査

- **目的**：これまでの学生側からみた部活動の傾向と課題を明らかにすること
- **日時**：2018年7月27日(金)～31日(火)
- **対象**：高知工科大学経済マネジメント学群に所属する1～3年生（342人）
- **方法**：アンケート調査

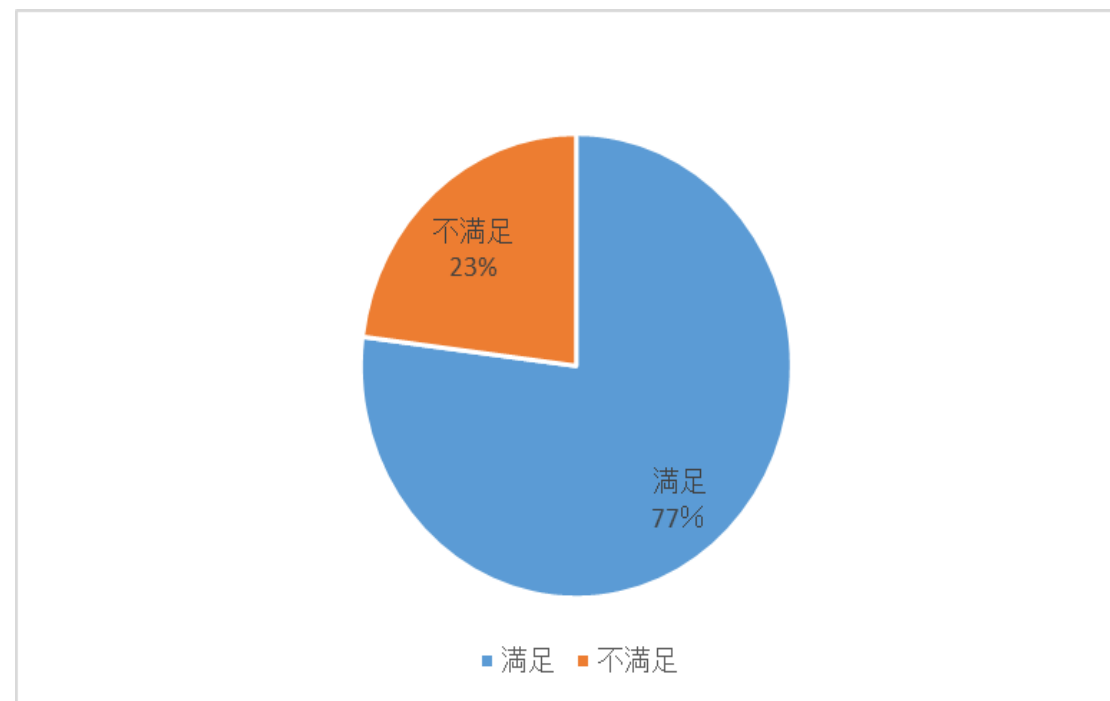


結果

顧問の専門性の有無



部活への満足度



顧問の専門性の有無と生徒の満足度の
相関関係はなし

という結果の不満足の見解の中でも・・・

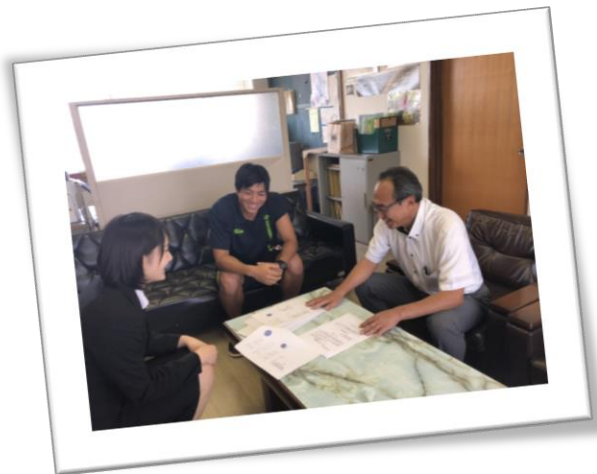
➤ 顧問に専門知識がなく指導に不満足だった生徒の見解

- 具体的な指導を受けることができなかった。
- 練習効率が悪く、時間の使い方に不満があった。



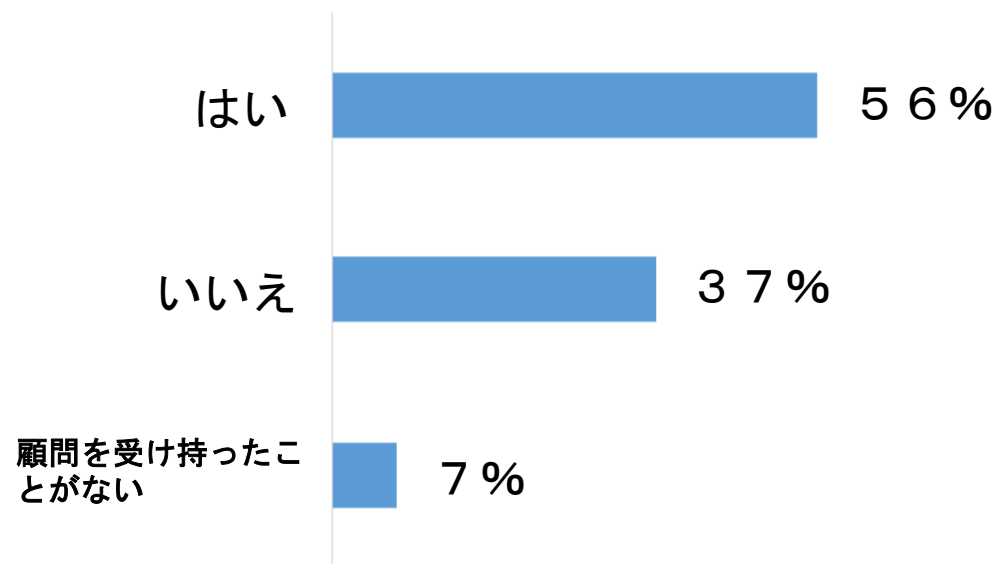
第二次調査

- ・ 目的：現職の中学校教諭で運動部顧問側からみた運動部活動の現状と課題を探る
- ・ 日時：2018年8月3日（金）、8月27日（月）
- ・ 対象：高知県A中学校の教諭（全校生徒115人、中山間地域）
高知県B中学校の教諭（全校生徒258人、中山間地域）
高知県C中学校の教諭（全校生徒585人、高知市内）
高知県D中学校の教諭（全校生徒192人、高知市内）
- ・ 方法：アンケート調査（A、B、C、D中学校）
インタビュー調査（A、C中学校）



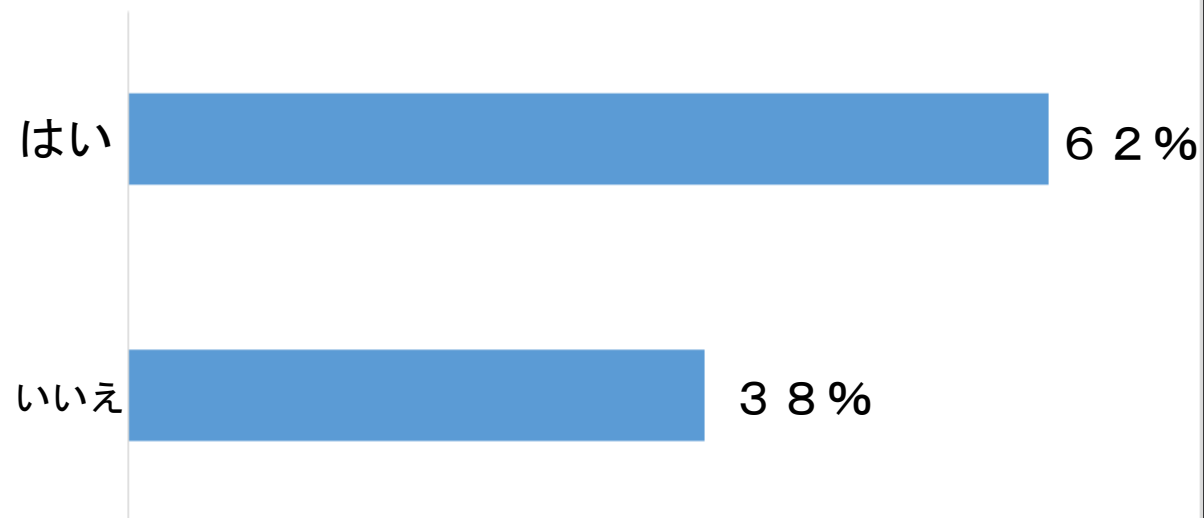
アンケート調査の結果

担当部活動の専門知識の有無



< A・B中学校 >

担当部活動の専門知識の有無



< C・D中学校 >

4割近くの先生が専門知識を持っていない

アンケート調査の結果

➤ 専門知識がなくて困難な点



- 年間計画を立てれない
- 技術指導
- 実践的にお手本として見せられない



さらに...

大会時に適切な指示、試合の審判



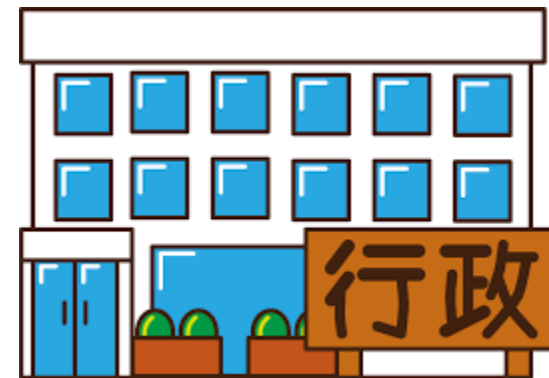
インタビュー調査の結果

A中学校（中山間地域）

◇子供は地域の宝物◇

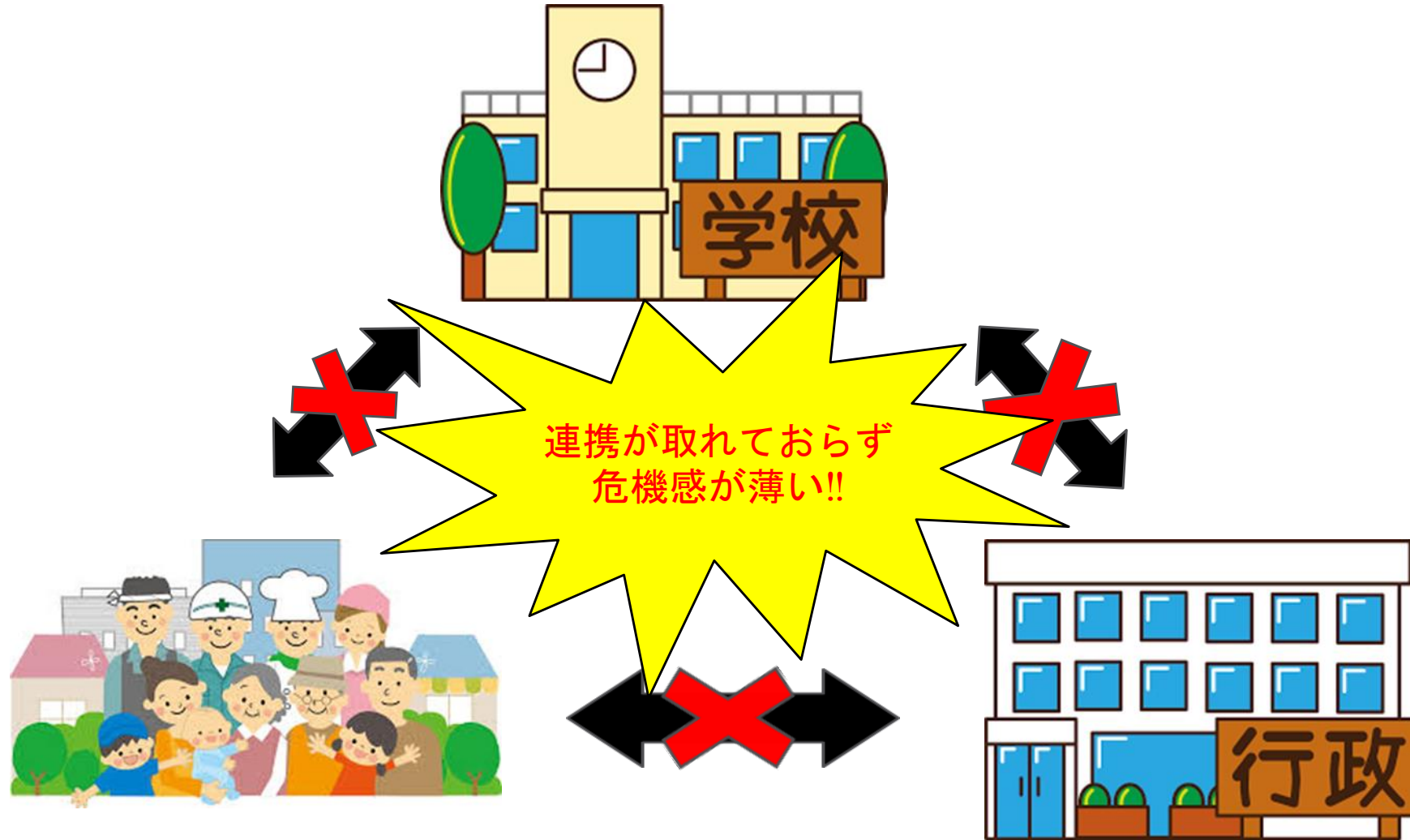


連携



C中学校（高知市内）

専門知識の有無は変わらないが.....



考察

➤ 学生に対するアンケート調査

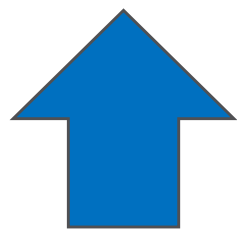


顧問に専門知識のない部活動に所属していた学生の満足度は

低くはない

しかし

技術指導が足りないと感じている



これを補うための労力が顧問の負担になっている



運動部活動顧問へのアンケート調査

4割は専門知識がないことが明らかに!!

教諭本来の職務である学習指導

+

部活動の顧問



これが過重労働に繋がっている





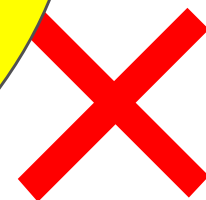
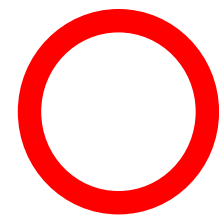
A



C中学校（高知市内）



改善すべきなのは
中山間地域よりも
高知市内である!!



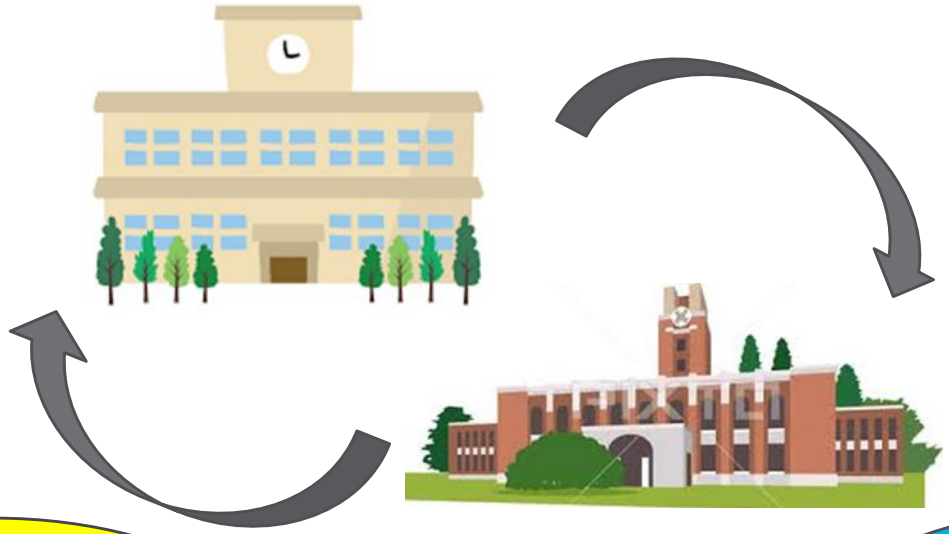
3, 提言

CSP

～Club Support Project～

地域の大学生が中学校へ部活指導のサポート





短期

長期

学校間交流

CSP 【Club Support Project】



大学

- ①短期
- ②長期
- ③学校間交流



中学校

CSP 【Club Support Project】

〈短期〉

- 対象：中学生の大会運営補助
- 派遣期間：中学校からの依頼に応じて短期・長期
- 派遣対象：学生（専門競技の審判や指導の資格を有する学生）
- 報酬：原則あり（各関係競技の行政・連盟の補助などを想定）
- 方法
 - ①主催者側から大学へ依頼する
 - ②大学が部活動の主務・マネージャーへ展開する
 - ③学生が応募する



CSP 【Club Support Project】



〈長期〉

- **対象**：中学校の日常の運動部活動
- **派遣期間**：1年間（週1回程度、長期休暇中は週1回以上）
- **派遣対象**：学生（運動部活動を3年以上してきた学生）
- **報酬**：原則なし
- **方法**：
 - ①市内の中学校の中で提携先中学校を選定する
 - ②人材に関する要望をアンケート調査
 - ③要望に沿った形でシラバスを作成・履修登録・単位認定

CSP 【Club Support Project】



年に1回、大学の運動部活動
のオフシーズンを利用

← 近隣の中学校部活動を受け入れる
(指導者や現役選手による専門知識を提供する場として活用してもらう)

➤効果・方法

- ①運動部活動での受け入れ体制の構築
- ②市内の中学校への周知：提携先中学校を中心に、競技連盟とも連携して周知する
- ③中学校側から、直接大学の運動部活動に依頼



CSP 【Club Support Project】

➔ 大学生が行う上でのメリット

- 大学の宣伝
- 地域貢献
- 教職課程取得中の学生の経験
- 部活動顧問の負担軽減？⇒他の業務ができる
- 単位認定



➔ 課題

- 移動手段
- 何か起きたときの対応
- 単位認定



CSP 【Club Support Project】

期待される効果



- 過重労働の緩和
- 専門的な指導が可能
- より良いスポーツ環境の整備

参考文献

https://www.jniosh.go.jp/publication/doc/houkoku/2012_01/Health_Problems_due_to_Long_Working_Hours.pdf (独立行政法人労働安全衛生総合研究所)

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/03/19/1402624_1.pdf



ご清聴ありがとうございました